

## 平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

**M：不思議！キノコゼミ**

**連携機関：県林業研究研修センター**

**会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室ほか**

【趣旨】キノコの生き方は、思いがけない知恵や工夫に満ちています。そんなキノコの生き方を学べば、まわりのキノコがますます身近なものと感じられるでしょう。本講座は知っているようで知らないキノコの不思議な世界へご案内します。

回	期 日	テーマ	講 師	参加者数
1	7月10日 (金)	超入門 楽しいキノコ学	上席研究員 菅原冬樹氏	20
2	9月4日 (金)	キノコのミクロな世界を のぞいてみよう！	上席研究員 菅原冬樹氏 研究員 鈴木博美氏	21
3	11月6日 (金)	【現地学習】千秋公園のキノコ	上席研究員 菅原冬樹氏 研究員 鈴木博美氏 秋田キノコの会会員 阿部実氏	22
合計				63名

第1回目の講座は「キノコとは、生物学的には菌糸を主体とするカビの仲間です。菌糸が成長してもキノコ（子実体）を作らないものはそのままカビと呼ばれますが、カビの中でも肉眼で確認できる大きさの子実体を作るものはキノコと呼ばれています。」という言葉から始まりました。まさに不思議な世界を学ぶ講座でした。ここでは3回目の現地学習について報告します。



講座が行われた11月6日は少し肌寒い日で、繁殖しているキノコも多くはありませんでした。しかし「千秋公園でもキノコを見つけられる」ということに、期待の表情を浮かべながら参加している方が多くいらっしゃいました。

マツなどの針葉樹にはハナビラタケ、ミズナラなどの広葉樹にはマイタケ…というように、キノコの菌が寄生する樹木はある程度決まっているので、植生に着目しながら山を歩くと見つけやすいそうです。

今回の講座でも、公園内の樹木の種類に基づいて、どの辺りに何のキノコが生えやすいかというポイントを多くご紹介いただきました。

また、中にはキノコが寄生したことで褐色腐れや白色腐れを起こしている樹木などもあり、生態系の中で「分解者」として位置づけられるキノコの力を知ることができました。まさに、樹木と共生関係にあることを実感しました。

食中毒防止のため、「名前の分からないキノコは採らない・食べない・人にあげない」という三原則を守ることに尽きる」と強調されていました。小さくても力強く生きる、キノコの魅力にたっぷりと触れることができました。

